

能代市教育委員会 事務点検・評価報告書

(平成23年度対象)

平成24年8月

能代市教育委員会

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定による事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I 点検・評価の趣旨等	1
1 点検・評価の趣旨	
2 点検・評価の対象	
3 学識経験者の知見の活用	
4 報告書の作成	
II 点検・評価の結果	
1 教育行政	
(1) 教育環境の整備	3
2 学校教育	
(1) - 1 主体的で創意に満ちた教育活動の推進	5
(1) - 2 主体的で創意に満ちた教育活動の推進（ふるさと教育）	7
(2) 基礎学力の向上を図る学習指導	9
(3) 心豊かでたくましい子どもをはぐくむ指導	11
(4) 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修	14
3 社会教育	
(1) 生涯学習推進・社会教育振興	16
(2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承	19
(3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供	21
(4) 芸術文化の振興と福祉の増進を図る	24
(5) 図書館サービスの充実	26
(6) 気軽に交流できる環境づくり	29
4 市民体育	
(1) スポーツを楽しめる環境を整える	31
III 教育委員会の運営状況	
(1) 教育委員会の開催状況	34
(2) 教育委員の活動状況	35

I 点検・評価の趣旨等

1 点検・評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、同法第27条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月から、すべての自治体の教育委員会自らが、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられました。

そこで、本市教育委員会は、当該法律の規定により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表いたします。

今年度においても、法律の規定に基づき、事業の点検・評価を実施し、昨年度との比較等を行い、今後のより効率的で効果的な事業の展開に資するものとしします。

2 点検・評価の対象

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条で教育委員会の職務権限とされている事務のほか、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象としますが、実際の点検・評価にあたっては、「能代市の教育」に記載されている施策を13項目に集約し、実施しております。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項で、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められておりますので、本市教育委員会では、教育に関し学識経験を有する次の2名の方から、意見をいただきました。

- 秋田大学教育文化学部教授 佐藤修司氏
- 元湊城第一小学校校長 芳賀忠昭氏

4 報告書の作成

報告書の作成スケジュールは、次のとおりです。

- ①各課及び施設等において、所管事務の点検・評価案（点検・評価シート）を作成
- ②学識経験者から、点検・評価案について意見を聴取
- ③点検・評価案に学識経験者の意見を加えて、報告書として作成
- ④教育委員会8月定例会で、報告書について議決
- ⑤報告書を9月議会に提出するとともに、ホームページ等で公表

Ⅱ 点検・評価の結果

施策の項目	(1) 教育環境の整備
方針・目標	校舎等の改築事業の推進
目標値	校舎等の改築事業の推進 小学校2校
事務事業の実績	<p>校舎等の改築事業の推進</p> <p>○第四小学校改築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第四小学校グラウンド整備工事 (H22～23年度) ・第四小学校プール建設工事等 (H23～24年度) <p>○二ツ井小学校改築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二ツ井小学校グラウンド整備工事 (H22～23年度) ・二ツ井小学校プール建設工事等 (H23～24年度) <p>※2校とも、平成22年3月に校舎・体育館建設工事が完了し、同年7月26日に供用を開始している。</p> <p>※グラウンドは飛砂防止等のため芝生化し、平成23年度に工事が完了した。</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>校舎等の改築事業については、小学校2校とも予定どおり平成23年度にグラウンド整備工事が完了した。平成24年度にプール建設工事等が完成すると改築事業が全て終了することになる。</p> <p>以上により、目標どおり事業を実施した。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎等の改築事業については、プール建設工事等の平成24年度完成を目標とする。 <p>(校舎等の改築事業終了後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した小学校プールの改築等、学校施設の一層の整備充実を図りたい。 ・小中学校の耐震化については、平成22年度に耐震補強工事を終了し、全小中学校が耐震基準を満たしている。今後は、社会教育施設、体育施設の耐震診断を実施し、施設の安全性を確保していきたい。

<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 学校についての耐震補強が終わり、プール等の改築・建設等が進められていることはとてもよいことであり、継続的に今後も取り組んでいただきたい。あわせて、秋田沖での地震も想定されていることから、避難所としての機能を高めたい。 社会教育施設、体育施設の耐震診断・補強も、それらの施設が住民の避難所となる可能性もあることから、早急に取り組んでいただきたい。</p> <p>② 小中学校の校舎・体育館の改築が予定どおり完了し、既存校舎の耐震補強工事も終了して耐震基準を満たした当局のご努力に敬意を表す。学校で子どもを預かっている時間帯に地震災害からの安全が確保された意義は大きい。</p> <p>③ 改築校舎に秋田杉の多用は、鉄筋コンクリート校舎の欠点である入梅時のじめじめ感の緩和や厳寒期の温もりなど、児童生徒の健康へ大きな利点がある。秋田杉の有用性を他都道府県にもアピールし、地場産業の振興に結びつけてほしい。</p> <p>④ プールの規格が現時点では第五小学校・浅内小学校ともに中学校規格になっており、授業・放課後・夏休み等での使用にあたっては、十分な安全管理体制をお願いしたい。</p> <p>⑤ グラウンドの飛砂を防ぐ芝生化は、グラウンド周辺の住民を飛砂の苦痛から救う事業でもある。</p> <p>⑥ 「能代市津波ハザードマップ」を、津波の際の避難経路・避難場所を各家庭で話し合ってもらえるよう児童生徒を通して要請し、市民の防災意識の向上を図ってほしい。</p>
-----------------	---

施策の項目	(1) - 1 主体的で創意に満ちた教育活動の推進
方針・目標	児童生徒の感性を磨き、思考力や表現力を高め、創造力を豊かにするため、各校の年間計画の策定を進めるとともに学校図書館図書の実を図りながら、読書活動を推進する。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての小・中学校が自校の特色を生かした上で読書活動の充実を図り、平成23年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査で「読書が好きですか」の割合について、「好き」を80%以上にする。 ・学校図書館の図書の新規購入及び廃棄等の整理を進め図書の充実を図る。
事務事業の実績	<p>① 「能代市小中学校における読書活動推進計画」に基づいた取組</p> <p>ア 各校の読書活動指導計画の作成 (7/29集約完了)</p> <p>イ 能代市読書交流パンフレット「能代っ子おすすめの一冊・心の一冊」を11月の読書週間に合わせて作成し、各校に配布。環境物としても活用</p> <p>ウ 特色ある読書活動を教育情報誌「教育のしろ」のコラム「読みの風景」等で紹介</p> <p>エ 図書事務補助員及び図書館担当教諭の研修機会の設定 (6/21 読書活動推進研修会を市立図書館と連携して実施、創意ある読書活動、学習センター機能の充実について情報交換、「資料の選定・整理について」の講習等)</p> <p>オ 学校支援ボランティアの活用促進 (10小学校3中学校に13名が活動) 他にPTA等の読み聞かせ、中学生の幼稚園等への読み聞かせ活動 (1校)</p> <p>カ 市立図書館等との連携 市立図書館の有効利用促進や団体貸し出しの実施、出前お話し会の実施 「子ども読書夢プラン事業」による派遣職員の活用 (5小学校2中学校に派遣。図書事務補助員のいない学校の図書館整備と読書指導)</p> <p>② 学校図書館図書標準達成状況の改善</p> <p>ア 「学校図書館図書標準」の達成を目標とし、各校の学校図書館図書標準達成状況に応じた、図書整備費を措置。適切な配置と廃棄を各校に助言</p> <p>イ 廃校校舎 (淳二小) の図書を補修して再活用。</p> <p>ウ 廃校校舎 (二ツ井地域) の図書を、指導主事が巡回し状況確認し再活用の検討。学校の図書関係職員に情報提供</p>
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る
	<p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書を好む小学生は85.3%、中学生は76.2%であり、中学生が未達成。 ・全小・中学校で、朝か昼に全校で一斉読書を実施。新聞を活用したり、購入する本のアンケートをとったりするなど、特色のある読書活動が増えてきている。 ・学校図書事務補助員は、全小・中学校を支援する体制を整えた。 ・ボランティア等の読み聞かせが定着している学校も増えてきた。(向能代小のべ年60回、浅内小のべ年33回、常盤小のべ年10回、朴瀬小月2回実施、他は年数回の実施) ・平成22年度の学校図書館標準達成状況は83.6%であったが平成23年度は86.7%。「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して、各校に図書購入のための予算が組み込まれたことが充足率の向上につながった。

<p>課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性</p>	<p>■拡充 □継続 □廃止検討 □その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学生とも、1ヶ月に平均2冊程度本を読んでいる。学年が上がるにつれて、冊数が減っている傾向にある。各校において、児童生徒の図書の貸出冊数や図書館利用数を増やすための手立て(チャレンジ読書や読書のあしあとなど)が必要である。 ・新学習指導要領では、各教科での学校図書館の学習センターとしての機能の充実を重視しているため、各校で各教科等の指導計画に図書の活用場面を位置づけるよう指導する。 ・魅力ある学校図書館環境を目指すために、図書事務補助員を対象とした研修会を開催する。(平成24年度新規事業) ・各校の特色ある読書を共有し、児童生徒の指導に生かすために、読書活動実践事例集を発行する。(平成24年度新規事業) ・各校の図書館の蔵書の整備をより充実させていくとともに、廃棄や修繕等も適切に行う。その際、保護者や児童生徒の図書委員などのかかわりも促進する。
<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>① 学校図書館の充実や、読書活動の充実が着実に推進されており、高く評価できる。考えられるほぼすべてのことが取り組まれ、成果をあげている。 今後、学校図書館標準達成状況のさらなる向上を目指していただきたい。読書好きの割合については、小学校と中学校の目標数値を分けて設定した方がよいと思われる。また、学校図書館を活用した読書活動の推進が、読解力の向上、集中力の向上、人格・情操面の向上などにどのように結びついていっているか、検証を重ねていただきたい。</p> <p>② 市内全小中学校で、全校読書の時間を設定し、児童生徒の本に接する時間を確保しており、読書にいそしみ家庭でも本に親しむきっかけを作っている。中学生は、部活動で読書時間が不足がちになりやすいが、読書の時間が確保されている意義は大きい。</p> <p>③ 県学習状況調査に、小学校児童の月の読書率が5割を切り、中学校は6割以上の生徒が月に1～4冊の本を読んでいるという結果が出ていた。小学校の場合は一斉指導を画一的に進めるだけでなく、個別の促しや図書紹介も考えられる。</p> <p>④ 読書能力の未熟な小学校段階では、とにかく本を読む楽しさを味わわせたい。 その入り口が教師やボランティアによる読み聞かせ活動で、市内各小学校で実践されており、読書を好む児童の育成につながっている。ボランティアのアウト向を子どもたちは待ち望んでおり、活動の定着と利用校の広がりを期待する。</p> <p>⑤ 年間に相当回数のある全校児童生徒への校長講話は、児童生徒の感性に訴えかける絶好の機会として利用していただきたい。</p>

2 学校教育

【学校教育課】

<p>施策の項目</p>	<p>(1) - 2 主体的で創意に満ちた教育活動の推進（ふるさと教育）</p>
<p>方針・目標</p>	<p>児童生徒が地域の自然や人間、社会、文化等と触れ合う機会を重視することにより、ふるさとのよさの発見やふるさとへの愛着心の醸成を目指すために、各校のふるさと教育の趣旨を生かした教育計画づくりや人々とのかかわりから学ぶ体験活動を推進する。</p>
<p>目標値</p>	<p>・すべての小・中学校が自校の特色を生かしたふるさと教育を実施できるような計画づくりを行う。</p>
<p>事務事業の実績</p>	<p>①地域の自然や人間、社会、文化を生かした教育計画づくりに基づいた取組 ア 各校のふるさと教育の趣旨を生かした教育計画づくりの呼びかけと教育計画の確認 イ 小学校で「ふるさと学習交流会」、中学校で「能代っ子中学生ふるさと会議」を開催 ウ 特色ある教育活動を教育情報誌「教育のしろ」「ふいご」等で紹介 ② 人々とのかかわりから学ぶ体験活動の推進 ア 学校支援ボランティアを活用した体験活動 イ 助成金制度（森林環境学習や地域活性化推進事業等）を活用した体験活動の推進</p>
<p>点検評価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明] ・各校とも、ふるさと教育の趣旨を生かした特色ある教育計画を策定している。 ・ふるさと学習交流会や能代っ子中学生ふるさと会議において、児童生徒同士が交流を深めるとともに、能代市民としての自覚を高め、能代市の未来や課題について保護者や地域の方々とともに考える場となっている。 ・ふるさと教育がいっそう推進するように、特色ある教育活動について、教育情報誌で各校に紹介している。 ・のべ75名の学校支援ボランティアが各校の体験活動をサポートした。（四小は能代市民歌の踊りの指導。五小は舞踊指導。朴瀬小・竹生小は農園作業。崇徳小・浅内小・常盤小は田植え・稲刈り指導や茶道教室。常盤中は茶道・華道体験。）</p>

課題及び今後の取組の方向性	<p>■拡充 □継続 □廃止検討 □その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 朴瀬小では、農園収穫物を地域の施設にプレゼントする予定である。また、鶴形小では町づくり協議会と連携しながら、地域に飛び出す清掃活動（マイおそうじグッズ）や森林環境学習活動支援事業で外部人材を活用した活動を行う。このような活動を各校に情報提供し、ふるさと教育の推進を図っていく必要がある。・ 27名の学校支援ボランティアが昔の遊びや学校農園作業、華道体験などで、各校の体験活動をサポートする。学校支援ボランティアの活用状況について、各校から適宜報告してもらい、指導・助言していく必要がある。・ 今年度も、放課後子ども教室の週末体験活動では、魅力ある体験活動が企画されている。生涯学習課と連携しながら、各校に参加を呼びかけ、様々な体験活動を推進していきたい。・ 能代東中ブロックの小・中学校を対象に行われる「いのちの教育あったかエリア事業」とおして、児童生徒がすすんで地域に関わろうとする取組を推進していきたい。
学識経験者の意見	<p>① 27名の学校支援ボランティアの活用など、さまざまな活動が行われており、成果も上がっているように思われる。 今後、学校支援ボランティアからの意見聴取や、集ってもらったの意見交換会などを通じて、さらなる充実を図っていただきたい。その際、学校側、教員側との連携がスムーズに行われ、体験活動がうまくいっているかについての検証をお願いしたい。また、児童・生徒の郷土への意識のありようについて、アンケートなどを行ってもいいように思われる。</p> <p>② 各校で実施しているふるさと教育は、地域の良さを知ったり、地域住民としての自覚を高め、キャリア教育にもつながっている。市教委で募集した学校支援ボランティアは、ふるさと教育にも有効に活用されている。学校支援ボランティアの方々に、教育長名の委嘱状を交付することで自信と誇りを持っていただけのではないかな。</p> <p>③ ふるさと教育は、学校周辺の素材（地域の職業人、伝統芸能、民俗の継承、地域の産物、地域の環境浄化等）と、それを関わり支えている人々から児童生徒が学ぶことである。同時に、「ふるさと教育」で児童生徒が取り上げた素材によっては、地域の住民が何気なく見ていた地域を見直したり地域連帯を深めるきっかけにもなっていると思われる。（「ふるさと学習交流会」と「能代っ子中学生ふるさと会議」から）</p>

2 学校教育

【学校教育課】

施策の項目	(2) 基礎学力の向上を図る学習指導
方針・目標	児童生徒に主体的な学習の場を保証し、学力の向上を図る。
目標値	秋田県の学習状況調査（小学校4年から中学校2年対象悉皆調査）で、各学年・各教科において市平均が県平均を上回る結果となるようにする。質問紙調査において、学習意欲、自力解決に関する評価項目で肯定的な評価が、90%以上になるようにする。
事務事業の実績	<p>① 県学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、研究主任会での情報交換及び指導助言、報告書の提出（県調査後2月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒の補充学習の実施の促進 ・学校や教師の課題を明確にした授業改善の促進 <p>② 学校訪問指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育庁北教育事務所長、山本出張所長訪問への指導主事随行(6-7月) ・市教委学校教育課指導主事による全学級訪問(6-10月) ・市教育長訪問（学校教育課長、同参事、指導主事随行）(11月) ・指導主事による要請訪問（市教委は事前研修からのサポート） <p>③ 研修機会の提供と各校の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校の理科担当者を対象に「理科学力向上研修会」（1月）を開催し、理科の「観察・実験の指導のポイント」について講話を聞き、指導力の向上を図った。 ・市情報教育研修会を3回開催し（1月2回、2月）、理科デジタル教科書及び電子黒板、ICT機器の初歩的な操作や活用方法について、講話、実践発表、情報交換、演習により理解を深め、ICTを活用した指導力の向上を図った。 ・中学校新学習指導要領の実施に伴い、武道が必修化されることから、柔道安全指導講習会（9月）を開催し、柔道授業における事故等の未然防止に努めた。 ・紀要『教育課程の展開と実践』の発行(3月)各校の校内研究のまとめ
点検評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査（23年12月実施）の結果は、小学校6年と中学校1・2年の全教科、小学校4年の国語、社会、算数、小学校5年の国語、算数が県平均を上回った。小学校4年の理科は-1.4ポイント、小学校5年の社会は-0.8ポイント、理科は-0.4ポイントで、県平均とほぼ同程度。学校間、学年間の格差があり、実態に即した指導方法の工夫・改善が求められる。 ・学習意欲は「勉強が好きだ」の割合は、小学校4年84.4%（県比+3.5%）、5年69.0%（-3.2）、6年83.0%（+11.9）、中学校1年51.4%（+0.7）、2年42.4%（+1.2）で、概ね良好な状況であるので維持したい。 ・自力解決は「わからないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい」の割合は、小学校4年94.3%（県比-0.3%）、5年88.9%（-3.2）、6年95.8%（+2.5）、中学校1年85.9%（-2.0）、2年87.1%（+2.8）で概ね良好な状況であるので維持したい。
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県平均を下回る項目の改善については、次の内容を、学校訪問指導、研修機会の提供、研究主任会等の主体的な取り組みの促進、情報提供等の支援により行う。 <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校における評価を生かした授業改善 学習規律の維持・徹底 小・中連携による学び方指導 家庭学習支援を含む補充指導の徹底

	<p>・教育情報の提供や各学校の実践や研究成果の共有化については、教育情報誌「ふいご」の年 12 回発行、紀要『教育課程の展開と実践』の作成、各校や個人の実践研究の発表機会の設定により、充実させる。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 指導主事訪問や、研究の充実などによって着実に成果が上がっている。今後、学習意欲等の低さが相対的に目立つ小学校 5 年生への働きかけを強めていただきたい。力のある教員に担当してもらうようなことも考えられる。柔道については、重大事故が起こらないよう、引き続き、体育担当者の技能向上、安全の確保に努めていただきたい。</p> <p>② 県学習状況調査の結果が、11教科中8教科で県平均を上回っており、市教委や市内各校教職員の努力の賜物である。各教科の結果を分析し課題を明確にして、教育長・指導主事等の学校訪問で教職員に伝達し、一層の学力向上を図っている。</p> <p>③ 学習状況調査の学習意欲で「勉強が好きだ」の割合が、県と同じ傾向で、小学校と中学校では差がある。小学校から中学校へ進級した1年生にとって、生活や学習形態にかなりの違いがあり、それが大きな中一ギャップとして学習の意欲にも影響している。市教育研究所や数校の中学校で「小中の連携」を研究項目にとりあげており、小学校から中学校へ連続性のあるスムーズな橋渡しを期待する。</p> <p>④ 各教科各題材には、ベテラン教師の創意工夫によって開発された効率よく理解させ習熟させる指導のポイントがたくさんある。そのポイントを教職員が共有することで基礎学力の向上を図れる。職員室に教師同士が指導方法を気軽に話し合い学び合える雰囲気を作ることができるかが基礎学力向上の重要ポイントである。</p> <p>⑤ 部活動が、学校の管理下から「スポーツ少年団」へ移行していることは望ましいことである。指導者によって、スポーツ好きの子どもの育成に主眼を置いている方もいれば、勝つことに置く方もいる。今後ますます「スポーツ少年団」への移行が進むと思われるが、学校施設を貸与し自校の児童生徒が関わっている校長は、学習に支障がないように健康管理や練習時間等、児童生徒の扱いが適切になされるよう指導者と綿密に連絡をとっていただきたい。</p> <p>⑥ 教師がゆとりを持って毎日の授業に専念できるよう、学校行事の精選を行ってほしい。</p>

施策の項目	(3) 心豊かでたくましい子どもをはぐくむ指導
方針・目標	いじめや不登校等の生徒指導上の問題について、未然防止や早期発見・適切な対応に努めるために学校と関係機関の連携や学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制をつくる。
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、早期発見、適切な対応ができる体制をつくる。 ・不登校の出現率を1,000人当たり6.0人以下にする。 ・全国学力・学習状況調査（質問紙調査）「学校で友達に会うのは楽しい」で、肯定的な回答をした児童生徒の割合を95%以上にする。
事務事業の実績	<p>① 心の教室相談員の配置</p> <p>子どもたちが学校で気軽に悩み等を話し、ストレスを和らげるために相談員を配置し、心のゆとりをもてる環境を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校12校中5校(児童数300人を超える学校)に4名配置 ・中学校7校全校に6名配置 ・1年間に心の教室を訪れた人数(延べ人数)9,312名(昨年度 8,433名) ・年間の相談件数 596件(昨年度 705件) ・相談員がかかわった不登校児童生徒の総数7名、内改善傾向3名(昨年度 総数11名、内改善傾向5名) ・いじめに関わる相談件数3件、内改善が見られた件数3件(昨年度 2件、改善2件) <p>② 適応指導教室「はまなす広場」の設置</p> <p>不登校児童生徒に対して、個別指導を通して学習意欲・自立心・社会性等を育て、学校復帰への手助けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級者9人 内復帰した児童生徒数2人(昨年度10人、内復帰4人) ・場所を2階の「風の子電話」の隣の教室に移動し、登校に向けての環境に配慮するとともに、風の子電話との連携を強化した。 <p>③ 「風の子電話」の設置</p> <p>電話や来所による教育相談を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間相談件数 電話33件 来所73件 内不登校に関する相談47件 その内学校復帰した児童生徒2人(昨年度電話27件 来所44件) ・学校や教育研究所、他機関との連携 ・適応指導教室との連携強化 <p>④ 不登校保護者会の開催</p> <p>不登校児童生徒をもつ保護者の援助活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3木曜日19:00～21:00 のべ73名参加,2名の学校復帰に関わる <p>⑤ 各小・中学校への指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策事業のリーフレット等を定期、随時に学校を通して保護者に配付。ホームページにも掲載。 ・毎月、支援を要する児童生徒(欠席日数の多少にかかわらず)の欠席日数、学校での状況と学校の対応、家庭での過ごし方等について報告を受け、取組へ指導助言した。 ・市生徒指導主事会(年4回)での、情報交換と小・中学校の連携強化、未然防止に向けた取組の呼びかけ。 ・指導主事が全小・中学校へ出向き、「不登校・いじめ防止研修会」を

	<p>市内全教職員に実施し、未然防止や早期発見、適切な対応を強化する取組を行った。（3校では県総合教育センターの学校支援講座との連携で実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-U検査（「楽しい学校生活を送るためのアンケート」）を全中学校1年生に実施し、不登校やいじめ被害の可能性の高い生徒の早期発見に努めた。中学校1年生の不登校生徒数6名（22年度、10名） ・心の教室相談員、教育相談員、スクールカウンセラーを校内の生徒指導研修会等に活用し、情報交換や校内連携を充実させた。
<p>点 検 評 価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは、小学校2件、中学校1件が報告されいずれも解消。 ・不登校の出現率は7.3人（児童生徒1,000人あたり）で、国の11.3人、県の9.2人（平成22年度）を下回っているものの、目標とした6.0人を超えている。出現率が20年度7.5人、21年度8.0人、22年度9.5人と少しずつ増加してきたが、23年度は20年度を下回った状況である。 ・支援対象として報告された46名中年度内に復帰した児童生徒は13名。 ・児童生徒による暴力行為は3件で、全体的にはおおむね安定した学校生活が実現できている。 ・全国学力・学習状況調査（質問紙調査）で、「学校で友達に会うのは楽しい」は小学校は94.5%、中学校は95.2%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。いずれも県平均と同等であり、全体の満足度は高い状態で、今後は個への対応に目を向けていきたい。
<p>課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>拡充 <input type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己有用感を高め、満足度の高い学校生活を送れるようにすることを基盤とする。いじめは絶対に許さない姿勢を全校の児童生徒及び教職員全員が共有する環境を作る。 ・新たに児童生徒支援アドバイザーを配置し、いじめや不登校、その他問題を抱える児童生徒にかかわる関係者間の連携を図り、当該児童生徒の早期問題解決が図られるよう支援を行う。配置場所を適応指導教室とし、適応指導教室指導員、教育相談員と常に連携を図りながら、相互に協力、補助し、支援の充実に努める。 ・昨年度に引き続き、いじめ・不登校防止研修会を市内全教職員に実施し、未然防止や早期発見、適切な初期対応を強化する取組を行う。講師として、指導主事に加え、電話相談員、児童支援アドバイザーも参加し、より具体的な内容とする。 ・Q-U検査（「楽しい学校生活を送るためのアンケート」）の対象を中学校1年生から、小学校6年生～中学校2年生にまで拡大実施し、中一ギャップの軽減や不登校・いじめの未然防止、早期発見、適切な対応に生かす。また、Q-Uの結果をより効果的に活用できるよう担当者の研修を実施するとともに、成果を全学校で共有し、次年度へ継続していく。 ・安心・安全な学校づくりのため、新規に防災担当委員会を立ち上げ、防

	<p>災教育モデル校（淳城西小、能代一中）の指定や防災教育先進地視察などを実施し、学校と連携して防災教育を推進していく。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 学校を楽しいと思う児童生徒の割合がとても高いことや、不登校の出現率が増加傾向から一転して大きく低下したことは大変望ましいことである。今後とも継続的に取り組んでいただきたい。</p> <p>② 防災については、今後もっと重視していく必要があるように思われる。</p> <p>③ 心の教室相談員配置校は、相談員へ訪れた児童生徒数が年間9,312人と前年度より879人増加し、逆に相談件数596件で109件減ったことから、児童生徒が気楽に立ち寄れる場所として、ストレスを和らげる機能を果たしていると思われる。</p> <p>④ 「風の子電話」への電話や来所による教育相談が106件と前年度より35件も増加しており、これまでの相談の実績や学校からのピーアールで、教育の相談場所として保護者から認められていることを感じる。</p> <p>⑤ 「はまなす広場」は、多人数にも応じられるよう広い教室を用意したり学習の指導体制も整えたりして、環境が整えられた。通級生は、自分の課題に真剣に取り組む、中学3年生は高校に進学した。適応指導教室の機能を果たしている。</p> <p>⑥ 不幸な結末を招いたいじめ事件が各地で起きているが、いじめに教師が気づいた時には相当に進行し、力量ある教師でも対処し切れないことがある。学級・学年・部活動のセクトにとらわれず、開かれた情報交換・対処が求められる。場合によっては、専門機関との連携も必要である。最悪の事態を招かないよう、いじめを訴える道筋を児童生徒や家庭に周知徹底しておく必要がある。</p> <p>⑦ 「スポーツ少年団」の指導者は、児童生徒の人間関係にも十分に目を配ってほしい。学校の管理下を離れた場所での人間関係のもつれが心配である。</p>

施策の項目	(4) 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修																																										
方針・目標	学校や教職員の課題に応じた研修機会の提供と充実により、教職員の識見を広げ、実践的指導力を向上させる。																																										
目標値	各研修会参加者の事後アンケートで「研修会の内容が実践に役立ったか」と「内容が分かりやすかったか」について、肯定的評価が4段階評価で3.5以上となるようにする。																																										
事務事業の実績	<p>① 職務別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務主任・研究主任の合同研修会（7月と1月） ミドルリーダーについての講義、その後分科会に分かれて、情報交換 ・研究主任会（11月） 学力・学習状況調査の分析 ・特別支援教育支援員研修会（7月と10月）（秋大特任教授、山本出張所指導主事による講義） <p>② 教職経験者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修（市主催は5月と6月） 1回目：服務及びいじめ・不登校防止についての講義、学習指導・生徒指導についての成果と課題、2回目：能代市の主な施設の視察 ・講師研修（8月と1月） 1回目：指導主事による講義、授業の導入部分の提示、2回目：現場教員の授業をビデオで視聴し、その後ワークショップによる研究協議会を実施 <p>③ テーマ別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道安全指導講習会（9月） ・情報教育研修会（1～2月） ・理科学力向上研修会（1月） <p>④ 中央の講師の講演聴講</p> <p>総合教育センターの公開講演への参加（指導主事引率で実施） ア 生徒指導(6月) イ 特別支援教育(8月) ウ 道徳(12月) 研修形態～集合研修(校外)が中心 研修方法～講話・講義、演習(ワークショップを含む)等</p>																																										
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る																																										
	<p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規の研修会として、秋大と連携した特別支援教育研修会、柔道安全指導講習会、情報教育研修会、理科学力向上研修会などを企画し、学校現場へ学校や市の課題に応じた研修会を提供することができた。 ・すべての研修会で4段階の事後アンケートを実施したところ、ほぼ全員からすぐに実践に役立つことや内容がわかりやすかったことについて高評価を得ている他、2月の教育研究所運営委員会でも委員から評価を得ている。 <table> <tr> <td>合同研修会（教務主任）</td> <td>1回目 実践 3.3</td> <td>内容 3.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2回目 実践 3.8</td> <td>内容 3.6</td> </tr> <tr> <td>合同研修会（研究主任）</td> <td>1回目 実践 3.3</td> <td>内容 3.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2回目 実践 3.6</td> <td>内容 3.6</td> </tr> <tr> <td>特別支援教育研修会（秋大連携）</td> <td>実践 3.6</td> <td>内容 3.8</td> </tr> <tr> <td>初任者研修Ⅰ（いじめ・不登校）</td> <td>実践 4.0</td> <td>内容 3.8</td> </tr> <tr> <td>初任者研修Ⅰ（ワークショップ）</td> <td>実践 4.0</td> <td>内容 3.8</td> </tr> <tr> <td>初任者研修Ⅱ（視察研修）</td> <td>実践 4.0</td> <td>内容 4.0</td> </tr> <tr> <td>柔道安全指導講習会</td> <td>実践 4.0</td> <td>内容 4.0</td> </tr> <tr> <td>情報教育研修会</td> <td>1回目 実践 3.6</td> <td>内容 3.7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2回目 実践 3.7</td> <td>内容 4.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3回目 実践 3.9</td> <td>内容 3.9</td> </tr> <tr> <td>理科学力向上研修会</td> <td>実践 3.9</td> <td>内容 3.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(平均 実践 3.6</td> <td>内容 3.7)</td> </tr> </table>	合同研修会（教務主任）	1回目 実践 3.3	内容 3.4		2回目 実践 3.8	内容 3.6	合同研修会（研究主任）	1回目 実践 3.3	内容 3.4		2回目 実践 3.6	内容 3.6	特別支援教育研修会（秋大連携）	実践 3.6	内容 3.8	初任者研修Ⅰ（いじめ・不登校）	実践 4.0	内容 3.8	初任者研修Ⅰ（ワークショップ）	実践 4.0	内容 3.8	初任者研修Ⅱ（視察研修）	実践 4.0	内容 4.0	柔道安全指導講習会	実践 4.0	内容 4.0	情報教育研修会	1回目 実践 3.6	内容 3.7		2回目 実践 3.7	内容 4.0		3回目 実践 3.9	内容 3.9	理科学力向上研修会	実践 3.9	内容 3.9		(平均 実践 3.6	内容 3.7)
合同研修会（教務主任）	1回目 実践 3.3	内容 3.4																																									
	2回目 実践 3.8	内容 3.6																																									
合同研修会（研究主任）	1回目 実践 3.3	内容 3.4																																									
	2回目 実践 3.6	内容 3.6																																									
特別支援教育研修会（秋大連携）	実践 3.6	内容 3.8																																									
初任者研修Ⅰ（いじめ・不登校）	実践 4.0	内容 3.8																																									
初任者研修Ⅰ（ワークショップ）	実践 4.0	内容 3.8																																									
初任者研修Ⅱ（視察研修）	実践 4.0	内容 4.0																																									
柔道安全指導講習会	実践 4.0	内容 4.0																																									
情報教育研修会	1回目 実践 3.6	内容 3.7																																									
	2回目 実践 3.7	内容 4.0																																									
	3回目 実践 3.9	内容 3.9																																									
理科学力向上研修会	実践 3.9	内容 3.9																																									
	(平均 実践 3.6	内容 3.7)																																									

<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職務別研修の充実。(教育研究所主催事業の充実、各研究団体等主催への支援、大学等専門家の協力) ・テーマ別研修の充実。(柔道安全指導、情報教育、外国語活動、図書整備・読書指導等を予定。いじめ・不登校研修は出前講座で全 19 校悉皆研修、5～7 月実施予定) ・中央の講師の講演聴講継続。(学習指導、言語活動、道徳を予定)
<p>学識経験者の意見</p>	<p>① さまざまな研修機会が提供され、受講者の評価も高くなっている。今後とも、受講者からの評価や意見を踏まえて、改善を加えていっていただきたい。できれば、校内研修を活発化させることや、教職員の自主的な研修、自己研鑽、学会や教育研究団体等への参加を盛んにしていくことも考えていただきたい。さらには、校外の研修が、学校経営・学級経営、学習指導、生徒指導等の改善にどのように結びついているのか、受講者単位で中期的な検証を行ってもいいのではないかと考える。</p> <p>② 教育研究所が、職務別研修・教職経験者研修・テーマ別研修等、多岐にわたる研修の場を提供し、研修に参加した初任者やミドルリーダー・講師等教職員から、すぐに実践に役立つと高く評価されている。教育研究所がしっかり機能している。</p> <p>③ 中学校体育で武道が必修化されたが、学校での負傷や死亡事故の一番多いのが体育授業や部活動の柔道に関わるものである。市教委主催で体育教師対象の安全指導講習会を開催し、事故防止を図ったことはタイムリーな研修であった。</p> <p>④ 中学校の音楽、美術、技術・家庭の教科は、教師が一人以下以下の配置になっており、同じ教科での授業研修の機会が少ない。他校の同一教科の授業研究会に参加できるよう便宜を図ってほしい。</p>

3 社会教育

【生涯学習・スポーツ振興課】

施策の項目	(1) 生涯学習推進・社会教育振興																																																																													
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習社会の実現に向け、その核となる社会教育を充実させる。 家庭及び地域の教育力向上が重要課題であり、豊かな心、生きる力を育めるよう学校・家庭・地域が連携協力し各種施策を推し進める。 																																																																													
目標値	<p>① 知識や特技を地区活動等に発揮することを心がけている市民の割合：19年度末の18.6%から24年度には25.0%に引き上げる。</p> <p>② 生涯学習指導者、ボランティア登録者数：19年度末の27組から24年度には40組に増やす。</p>																																																																													
事務事業の実績	<p>○学校・家庭・地域の連携協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室推進事業（市内全小学校12校で実施） <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">23年度</th> <th colspan="3">22年度</th> </tr> <tr> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日図書室等開放</td> <td>7</td> <td>1,328</td> <td>18,948</td> <td>8</td> <td>1,389</td> <td>15,113</td> </tr> <tr> <td>土曜日体育館開放</td> <td>5</td> <td>127</td> <td>2,715</td> <td>4</td> <td>96</td> <td>2,098</td> </tr> <tr> <td>週末体験活動</td> <td>12</td> <td>51</td> <td>1,473</td> <td>12</td> <td>51</td> <td>1,343</td> </tr> <tr> <td>夏休みプール開放</td> <td>10</td> <td>154</td> <td>4,640</td> <td>11</td> <td>147</td> <td>6,404</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,660</td> <td>27,776</td> <td></td> <td>1,683</td> <td>24,958</td> </tr> </tbody> </table> <p>○のしろDEマナブゥ事業（本格実施は24年度から）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育課との共催により「ふるさと学習交流会」を公民館祭に合わせて、文化会館で開催し、より多くの市民に子どもたちの学習成果を見てもらうことができた。（郷土芸能発表 1団体、ふるさと学習発表 4校） 子ども向けのコーナーや出張子ども館「じっけんでマナブゥ」コーナーを設け子どもたちが参加しやすいように努めた。 大ホールホワイエに各学校のこれまで取り組んできたふるさと学習を展示した。 <p>○家庭教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 「能代市家庭教育支援方針」に基づき、子育て各期における学習機会の拡充、異世代間の交流機会の拡充等のための講座を実施した。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">23年度</th> <th colspan="2">22年度</th> </tr> <tr> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家庭教育関係講座</td> <td>25</td> <td>899</td> <td>29</td> <td>1,226</td> </tr> <tr> <td>社会参加活動推進事業「みんなでAction!」</td> <td>15</td> <td>中高生 125 受入団体 332</td> <td>18</td> <td>中高生 134 受入団体 551</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>40</td> <td>1,356</td> <td>47</td> <td>1,911</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭教育に関する本」の貸出し 延べ127人、167冊 家庭教育支援事業推進会議を2回開催（9月・3月） 家庭教育通信「Only one」を3回発行 家庭教育支援事業報告書を作成し関係者に配布 <p>○青少年健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 「平成23年度能代市青少年健全育成活動方針」を、市のホームページに掲載するとともに、各自治会長や町内会長へ配布したり、能代市青少年問題協議会の委員の所属する団体の総会や会議で会員に呼びかけ周知に努めた。 家庭教育支援事業「みんなでAction!」を青少年育成能代市民会議とタイアップして実施。（実績は家庭教育支援に記載） 							23年度			22年度			学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数	平日図書室等開放	7	1,328	18,948	8	1,389	15,113	土曜日体育館開放	5	127	2,715	4	96	2,098	週末体験活動	12	51	1,473	12	51	1,343	夏休みプール開放	10	154	4,640	11	147	6,404	合計		1,660	27,776		1,683	24,958		23年度		22年度		講座数	参加者数	講座数	参加者数	家庭教育関係講座	25	899	29	1,226	社会参加活動推進事業「みんなでAction!」	15	中高生 125 受入団体 332	18	中高生 134 受入団体 551	合計	40	1,356	47	1,911
	23年度			22年度																																																																										
	学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数																																																																								
平日図書室等開放	7	1,328	18,948	8	1,389	15,113																																																																								
土曜日体育館開放	5	127	2,715	4	96	2,098																																																																								
週末体験活動	12	51	1,473	12	51	1,343																																																																								
夏休みプール開放	10	154	4,640	11	147	6,404																																																																								
合計		1,660	27,776		1,683	24,958																																																																								
	23年度		22年度																																																																											
	講座数	参加者数	講座数	参加者数																																																																										
家庭教育関係講座	25	899	29	1,226																																																																										
社会参加活動推進事業「みんなでAction!」	15	中高生 125 受入団体 332	18	中高生 134 受入団体 551																																																																										
合計	40	1,356	47	1,911																																																																										

	<p>○生涯学習指導者、ボランティアの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでAction!」に多くの中学生・高校生ボランティアが参加することにより、社会活動への参加経験を積んでもらうことができた。 ・崇徳小学校の正課クラブ活動「檜山舞」の活動支援として、生涯学習奨励員が檜山舞の学習指導や実技指導、発表会での支度の手伝いなど継続して学校との関わりをもった。 ・放課後子ども教室推進事業のコーディネーターが、複数校での週末体験活動を企画したり、生涯学習奨励員が講師や活動リーダーとして参加し活躍した。 ・生涯学習ボランティアの活用を図るため、登録者名簿を整備し公表できるようにした。
<p>点検・評価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①については、最終目標値「25.0%」に対し、23年度実績が「21.1%」で、前年度より増加した。市民意識調査の指標を基にしているため調査年度ごとの変動が大きいですが、23年度も引き続き地域人材の活用や、作品展示など発表の場の提供に努めた。 ・②については、最終目標値「40組」に対し、23年度実績が「37組（人）」であり、最終目標達成に向け概ね順調に推移している。24年4月1日現在の登録者は40組（人）である。
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「放課後子ども教室週末体験活動」や24年度本格実施の「のしろDEマナブ事業」の体験学習の中で、地域人材の活用を図っていく。 ○年度当初の学校訪問や学社連携推進会議等において、学校に対し、ふるさと学習やクラブ活動に生涯学習ボランティア・地域人材の活用を働きかけていく。 ○公民館祭、自主学習グループの作品発表など学習成果の発表の場を引き続き提供していくが、主催者と連携しPRに努める。 ○身近な知識や経験を地域に活かしていくことを、意識づけるための具体的方法を考えていく必要がある。
<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 放課後子ども教室推進事業の参加者数が大きく伸びており、図書室、体育館の利用が多く、さらなる拡大が期待される。 身近な知識や経験を地域に活かしていくことの意識付けのための具体的方法を考えるとされており、この点を今後期待したい。</p> <p>② 「ふるさと学習交流会」が、文化会館で市民を前に催され、発表内容や発表態度、児童の運営等で聴講者から高く評価された。児童が地域と関わりながら調査研究した成果を発表できる場があることは、ふるさと教育の振興につながる。</p> <p>③ 子ども館主催行事、チビッ子公民館、キッチン・キッズ、土曜体験教室、夏休み・冬休み体験教室等は、幼児・児童への豊かな体験活動になるよう工夫され、参加した子どもたちから喜ばれている。主催者側は幼稚園や学校を通し保護者に内容をピーアールすることで参加者が増える。</p> <p>④ 「家庭教育支援」は、幼児期の親に対する学習の機会が多く、子育ての方々の大きな支えとなっている。核家族化の中で若い夫婦の子育ては、未体験の領域へ踏み込むことの不安の連続と思われる。一層の広報活動で子育てをしている方々へ受講を勧めてほしい。</p>

- | | |
|--|---|
| | <p>㊦ 子ども七夕や御輿担ぎ・地域の祭りやおなごりフェスティバルに多数の小中学生が参加し、地域や能代市を盛り上げている。青少年の行事参加マナーも健全で、地域の教育力が生きている。</p> <p>㊧ 学校の正課クラブや週末体験活動・放課後こども教室推進事業等に対するボランティアによる支援は、支援者の生きがいにもなる。児童生徒の保護者から有能な人材を推薦していただく方法もある。</p> |
|--|---|

施策の項目	(2) 文化芸術活動の振興と文化財の保存・継承													
方針・目標	市民文化振興事業と文化財保護事業の推進													
目標値	○市民文化振興事業の推進 文化月間入場者数 展示部門：5,000人 舞台部門：800人 ○文化財保護事業の推進 指定・登録文化財数：98件（維持） 歴史探訪会の満足度：4以上（5段階評価で） 関係諸団体の活動支援 歴史ガイドの会・能代市民俗芸能連合会													
事務事業の実績	○市民文化振興事業の推進 ・文化月間の設定 <table border="1" data-bbox="445 577 1406 701"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23年度</th> <th>H22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示部門</td> <td>参加11団体、入場者数4,598人</td> <td>参加11団体、入場者数4,650人</td> </tr> <tr> <td>舞台部門</td> <td>参加19団体、入場者数600人</td> <td>参加20団体、入場者数900人</td> </tr> </tbody> </table> ・芸術文化団体への支援 能代ミュージカル制作・公演費補助金 能代ミュージカル・キッズ公演・練習会場使用料負担			H23年度	H22年度	展示部門	参加11団体、入場者数4,598人	参加11団体、入場者数4,650人	舞台部門	参加19団体、入場者数600人	参加20団体、入場者数900人			
	H23年度	H22年度												
展示部門	参加11団体、入場者数4,598人	参加11団体、入場者数4,650人												
舞台部門	参加19団体、入場者数600人	参加20団体、入場者数900人												
	○文化財保護事業の推進 ・指定・登録文化財数：98件（前年度と同数） ・歴史探訪会の実施 「菅江真澄の歩いた道(二ツ井地区)」 開催日：H23.6.18 参加者：14人〔評価：4.43〕 「森林鉄道跡を訪ねる(資料館特別企画)」 開催日：H23.10.29 参加者：14人〔評価：4.57〕 合計28人（H22年度：市内・市外計44人）													
	・関係諸団体の活動支援 歴史ガイドの会 養成講座の開催等 <table border="1" data-bbox="445 1326 1283 1408"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23年度</th> <th>H22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>檜山周辺歴史ガイドの会会員数</td> <td>47人</td> <td>48人</td> </tr> </tbody> </table> 能代市民俗芸能連合会 合同公演・後継者育成事業支援〔補助金〕			H23年度	H22年度	檜山周辺歴史ガイドの会会員数	47人	48人						
	H23年度	H22年度												
檜山周辺歴史ガイドの会会員数	47人	48人												
	・史跡の除草の実施 檜山安東氏城館跡、杉沢台遺跡、柏子所貝塚、鴨巣一里塚													
	・遺跡分布調査、発掘調査 <table border="1" data-bbox="445 1576 1018 1742"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23年度</th> <th>H22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本発掘</td> <td>—</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>試掘</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>立会</td> <td>1件</td> <td>4件</td> </tr> </tbody> </table>			H23年度	H22年度	本発掘	—	1件	試掘	3件	3件	立会	1件	4件
	H23年度	H22年度												
本発掘	—	1件												
試掘	3件	3件												
立会	1件	4件												
	・民俗芸能の継承 子ども民俗芸能発表会の開催〔新規〕開催日：H23.10.23 4団体													

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ○市民文化振興事業の推進 文化月間の入場者数については、舞台部門で前年度より減少したものの、展示部門ではほぼ前年並みを維持している。 ○文化財保護事業の推進 指定・登録文化財数は目標値を達成している。 歴史探訪会については、市外の探訪を市内に変更したため参加人数は減少したが、参加者の満足度評価では4以上で目標を達成している。 以上により、ほぼ目標どおり事業を実施した。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 () [具体的な課題及び取組] 市民文化振興に関する事業はこのまま継続する。文化財保護については、文化財の適切な保存に努めるとともに、活用については民間団体等とともに取り組み、市民の文化財に対する関心と理解を深めていく。
学識経験者の意見	① 市民文化振興事業では、舞台部門で入場者数がかなり減少しており、展示部門も若干減少している。この点についての原因の分析を行っていただき、改善に努めていただきたい。 ② 能代ミュージカルや能代ミュージカル・キッズの毎年の公演は、満員の観客入場から見ても市民の誇りであり、市からの公演費補助や練習会場使用負担は支持されると思う。 ③ 能代市の各地域で継承されてきた郷土芸能を視聴可能な記録として保存し、いつでも利用できる資料にしておいてほしい。地域によっては、奴踊りの横笛奏者が亡くなって継承の途絶えたところもある。 ④ 市施設が市民の学習活動・練習の場と学習成果発表の場として提供され、学習者の大きな励みとなっている。 ⑤ 伝統芸能の継承に青少年が関わりしっかり受け継がれているところは、指導者が若い方々から尊敬され老若の交流もしっかりとなされていると感じる。継承の成果を披露する民俗芸能発表会を開催し設けたことは、継承者の大きな励みにもなる。

施策の項目	(3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供																																																																																																																																														
方針・目標	① 家庭の教育力の向上を図る学習機会の提供 ② ボランティア活動の学習支援と活動促進 ③ 高齢社会に即応した学習機会の提供と社会参加の促進 ④ コミュニティ活動の充実 ⑤ 異年齢・異世代交流活動の促進																																																																																																																																														
目標値	前年度実績との比較で、同等あるいは上回ること。																																																																																																																																														
事務事業の実績	1. 開設講座・事業数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>年度</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th colspan="2">参加者数</th> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>39講座</td> <td>240回</td> <td colspan="2">12,358人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>39講座</td> <td>238回</td> <td colspan="2">13,095人</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>0講座</td> <td>2回</td> <td colspan="2">△737人</td> </tr> </table> 2. 平成23年度開催講座内訳（地区公民館含む・数値は延べ数） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>おもな事業内容</th> <th>対象</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> <th>H22比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">家庭教育 (幼児教育)</td> <td>親子体験活動</td> <td>年長児と保護者</td> <td>8</td> <td>76組</td> <td>△ 25</td> </tr> <tr> <td>食育体験学習</td> <td>年長児～小学生3</td> <td>6</td> <td>89人</td> <td>△ 5</td> </tr> <tr> <td>保護者の学習</td> <td>保護者</td> <td>9</td> <td>357人</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">少年教育</td> <td>体験活動・異年齢交流</td> <td>小学生3・4</td> <td>4</td> <td>134人</td> <td>△ 57</td> </tr> <tr> <td>体験活動(地区)</td> <td>地区小学生</td> <td>16</td> <td>184人</td> <td>△ 19</td> </tr> <tr> <td>青年教育</td> <td>ボランティア育成</td> <td>高校生</td> <td>8</td> <td>84人</td> <td>△ 37</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">成人教育</td> <td>テーマに沿った課題学習</td> <td>一般成人</td> <td>12</td> <td>146人</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>集合学習(教養・趣味)</td> <td>一般成人</td> <td>92</td> <td>1,110人</td> <td>△ 84</td> </tr> <tr> <td>働く婦人の家主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>5</td> <td>90人</td> <td>△ 22</td> </tr> <tr> <td>勤労青少年ホーム主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>3</td> <td>48人</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高齢者教育</td> <td>集合学習</td> <td>高齢者</td> <td>55</td> <td>2,544人</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>世代間交流(高齢者育成)</td> <td>高齢者</td> <td>2</td> <td>83人</td> <td>△ 10</td> </tr> <tr> <td>文化活動</td> <td>公民館祭・文化祭</td> <td>—</td> <td>18</td> <td>7,138人</td> <td>△ 808</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コミュニティ活動</td> <td>地域づくり講演会</td> <td>一般成人</td> <td>1</td> <td>110人</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>地域交流(地区)</td> <td>一般成人</td> <td>1</td> <td>165人</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合 計</td> <td>240</td> <td>12,358</td> <td>△ 737</td> </tr> </tbody> </table> 3. 自主学習グループ支援 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館使用料の減額、施設の優先予約（通常1ヶ月前→2ヶ月前） ・公民館祭への参加（作品展示・芸能発表・公開講座） ・新規会員募集グループ紹介活動 ・その他学習相談への対応 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>グループ数</th> <th>人数</th> <th>男</th> <th>女</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23</td> <td>263団体</td> <td>4,667人</td> <td>1,289人</td> <td>3,378人</td> <td>H24.3.31</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>269団体</td> <td>4,140人</td> <td>1,197人</td> <td>2,943人</td> <td>H23.3.31</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>△6団体</td> <td>527人</td> <td>92人</td> <td>435人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 4. 学習記録 <ul style="list-style-type: none"> ・受講生による日誌制導入（中央公民館主催講座のみ） ・市民学校文集『よねしろ』第9・10号発行 					年度	講座数	回数	参加者数		H23	39講座	240回	12,358人		H22	39講座	238回	13,095人		増減	0講座	2回	△737人		分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数	H22比較	家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年長児と保護者	8	76組	△ 25	食育体験学習	年長児～小学生3	6	89人	△ 5	保護者の学習	保護者	9	357人	30	少年教育	体験活動・異年齢交流	小学生3・4	4	134人	△ 57	体験活動(地区)	地区小学生	16	184人	△ 19	青年教育	ボランティア育成	高校生	8	84人	△ 37	成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	12	146人	78	集合学習(教養・趣味)	一般成人	92	1,110人	△ 84	働く婦人の家主催講座	一般成人	5	90人	△ 22	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	3	48人	48	高齢者教育	集合学習	高齢者	55	2,544人	159	世代間交流(高齢者育成)	高齢者	2	83人	△ 10	文化活動	公民館祭・文化祭	—	18	7,138人	△ 808	コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	1	110人	0	地域交流(地区)	一般成人	1	165人	15	合 計			240	12,358	△ 737	区分	グループ数	人数	男	女		H23	263団体	4,667人	1,289人	3,378人	H24.3.31	H22	269団体	4,140人	1,197人	2,943人	H23.3.31	増減	△6団体	527人	92人	435人	
年度	講座数	回数	参加者数																																																																																																																																												
H23	39講座	240回	12,358人																																																																																																																																												
H22	39講座	238回	13,095人																																																																																																																																												
増減	0講座	2回	△737人																																																																																																																																												
分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数	H22比較																																																																																																																																										
家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年長児と保護者	8	76組	△ 25																																																																																																																																										
	食育体験学習	年長児～小学生3	6	89人	△ 5																																																																																																																																										
	保護者の学習	保護者	9	357人	30																																																																																																																																										
少年教育	体験活動・異年齢交流	小学生3・4	4	134人	△ 57																																																																																																																																										
	体験活動(地区)	地区小学生	16	184人	△ 19																																																																																																																																										
青年教育	ボランティア育成	高校生	8	84人	△ 37																																																																																																																																										
成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	12	146人	78																																																																																																																																										
	集合学習(教養・趣味)	一般成人	92	1,110人	△ 84																																																																																																																																										
	働く婦人の家主催講座	一般成人	5	90人	△ 22																																																																																																																																										
	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	3	48人	48																																																																																																																																										
高齢者教育	集合学習	高齢者	55	2,544人	159																																																																																																																																										
	世代間交流(高齢者育成)	高齢者	2	83人	△ 10																																																																																																																																										
文化活動	公民館祭・文化祭	—	18	7,138人	△ 808																																																																																																																																										
コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	1	110人	0																																																																																																																																										
	地域交流(地区)	一般成人	1	165人	15																																																																																																																																										
合 計			240	12,358	△ 737																																																																																																																																										
区分	グループ数	人数	男	女																																																																																																																																											
H23	263団体	4,667人	1,289人	3,378人	H24.3.31																																																																																																																																										
H22	269団体	4,140人	1,197人	2,943人	H23.3.31																																																																																																																																										
増減	△6団体	527人	92人	435人																																																																																																																																											

5. 勤労青少年ホーム利用者連絡協議会

区分	利用グループ数	登録人数
H23	16団体	82人
H22	15団体	80人
増減	1団体	2人

6. 働く婦人の家利用グループ

区分	利用グループ数	登録人数
H23	64団体	752人
H22	67団体	717人
増減	△3団体	35人

[参考]

公民館年間利用者数（中央、旧能代地区6館、二ツ井、分館8館）
 H21~137,918人、H22~125,302人、H23~118,531人
 （3カ年平均：127,250人／年）

点 検 評 価

目標を上回る ほぼ目標どおり 目標をやや下回る
目標を大幅に下回る

[説明]

- ・講座数、回数とも前年と比べほとんど増減がなかったが参加者数が減少した。
- ・家庭教育、少年教育ではバラエティーに富んだ体験メニューの実施を図った。
- ・成人教育では、教養講座や趣味的講座を開設し、集合学習の機会を提供した。
- ・高齢者教育では、高齢者の学習や社会参加への機会の提供を図った。
- ・自主学習グループは、15の団体が加入したが、高齢化等により解散をする団体もありグループ数は減少したが、人数は大幅に増加した。
- ・勤労青少年ホーム利用者による連絡協議会は、グループ数、登録人員とも増加した。働く婦人の家は、グループ数が減少、登録人員は増加となった。

課 題 及 び
 今 後 の 取 組 の
 方 向 性

拡充 継続 廃止検討 その他（ ）

[具体的な課題及び取組]

- ・学習成果を地域づくりに活かす仕組みづくりに取り組む。
- ・講座毎に実施しているアンケートの結果を基に、新たな講座を検討する。
- ・世代毎のニーズに即した講座の開設を検討する。
- ・自主学習グループ等の意向を調査し利用しやすい施設の運営に努める。
- ・より多くの方が講座に参加できるよう、広報やホームページを活用するなど事業の周知を徹底する。
- ・多様化する住民ニーズに効果的かつ効率的に対応し、住民サービスの向上を図るため指定管理者制度の検討を行う。
- ・目標値に、利用者満足度の評価目標を加える。

※ 平成24年度内に耐震診断実施予定（診断結果によっては使用制限あり）
 ～診断結果は24年12月下旬判明予定

<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 少子高齢化の影響もあり、年々厳しくなる中で努力されていることがよくわかる。利用者の声、市民の声をくみ取りながら、今後とも工夫を継続していただきたい。</p> <p>② 「広報のしろ」の“学びの情報箱”に、どこでどんな講座がどのような方を対象にいつ開催されるかなど、学習機会の提供についての内容が詳しく掲載され、広報活動は十分になされている。年度当初、年間計画に位置づけられた講座一覧表があれば、それによって一年間の受講計画を立てる方もいる。</p> <p>③ 市民が、どんな内容の講義を求めているのか、どの方の講義を受けたいのか、ニーズを探る手立てを尽くしてほしい。</p> <p>④ 自主学习グループによっては、指導者と会員の高齢化が進み、解散や会員数の減少が見られるのはやむを得ない。</p> <p>⑤ 前年度の数的実績を上回ることも、受講者の満足度を高めることを目指してほしい。そのためにも、受講者の要望を事前に聞き、講演者に伝えて講義に生かしてもらおうとか、双方向性のある講座があってもいい。</p> <p>⑥ 年間を通して曜日と時間帯を決めて施設を借用し、定期的に活動している団体でも、施設の借用に毎月初めに出向いて申請しなければならない。出向く担当者の負担が大変大きい。普段の活動は年度当初年間計画を提出して借用し、公的な行事や幼稚園・保育所・学校関係の行事とかち合った場合はそちらを優先し調整するも、毎年の行事の流れから行事の予測がつくはずである。施設使用料の支払いは1年分の前納でも月初めの納入でもいいのではないか。年間で半分に割った前期後期でもいい。高齢者の団体では、係の選出に困難を来たし活動の衰退につながる恐れがある。</p>
-----------------	---

施策の項目	(4) 芸術文化の振興と福祉の増進を図る			
方針・目標	①主催事業の企画実施 ②芸術文化活動の育成と参加の奨励 ③会館の効率的な利用			
目標値	前年度実績との比較で、同等あるいは上回ること			
事務事業の実績	平成23年度実績			
	①主催事業			
	開催日	事業名	内容	入場者数
	1 6/12(日)	演劇「僕はアフリカにすむキンと いいます」	こども向け演劇公演	269
	2 7/31(日)	綾戸智恵コンサート2011～PRAYER	綾戸智恵	835
	3 9/ 2(金)	23年度松竹特別公演	「女の一生」	715
	4 10/23(日)	ゴスペラーズ坂コンサート	ゴスペラーズ	1,128
	5 11/ 6(日)	宝くじまちの音楽会	岡村孝子&あみん	939
	6 3/18(日)	千住真理子ヴァイオリンリサイタル	千住真理子	975
		23年度合計	6回開催	4,861
		22年度合計	7回開催	5,113
		前年比		△ 252
	②市民芸術文化祭			
	区分	展示部門	舞台部門	
	H23	12団体 入場者数 4,598人	19団体 入場者数 841人	
	H22	13団体 入場者数 7,765人	20団体 入場者数 872人	
	前年比	△1団体 入場者数 △3,167人	△1団体 入場者数 △ 31人	
	※ H22～横手近代美術館(ふるさと村)移動展(2,730人)開催により増加			
	※ H22～能代市芸術文化協会 60周年記念により文化祭を盛大に開催			
	③ロビーコンサート (市民が自主開催し、無料で会場を提供)			
	8回開催 入場者数：610人			
	開催日	事業名	内容	入場者数(人)
	1 8/6(土)	第48回 ロビーコンサート	Funny Crew 吹奏楽団+向小 吹奏楽部	70
	2 12/23(金)	第49回 //	管弦楽コンサート	40
	3 12/25(日)	第50回 //	齋藤誠宏ピアノコンサート	50
	4 2/18(土)	第51回 //	商業高校吹奏楽部	70
	5 3/11(日)	第52回 //	関口美奈子ロビーコンサート	120
	6 3/17(土)	第53回 //	Funny Crew 吹奏楽団	80
	7 3/26(月)	第54回 //	早川タップロビーコンサート	80
	8 3/28(水)	第55回 //	工業高校吹奏楽部	100
		23年度合計	8回開催	610
		22年度合計	8回開催	630
		前年比		△ 20
	[参考]			
	文化会館年間利用者数			
	H20～105,631人、H21～117,995人、H22～103,044人、H23～101,476人 (4カ年平均：107,036人/年)			
	※ 本庁地区避難所として、文化会館、青少年ホームが指定されている。 (水害時は、高齢者福祉避難所として指定)			
	※ 平成24年度内に耐震診断実施予定 (診断結果によっては使用制限あり) ～診断結果は24年12月下旬判明予定			

点 検 評 価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ・鑑賞型主催事業は催物のジャンルに偏りがないよう計画し、6本実施した。 23年度実績は回数、総入場者数とも減少したが、1公演あたりの平均入場者数は前年度より増加しており、市民ニーズに合った公演が実施できた。 ・市民芸術文化祭への参加団体や参加人数は減少し、会館を気軽に利用したロビーコンサートも前年度の入場者数に届かなかった。
課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 () [具体的な取組] ・主催事業費の増加は厳しく、現状維持が予想されることから、各種助成制度を活用した事業の企画を推進しながら、ホームページ等などあらゆる機会を通して利用促進を図る。 ・主催事業時に行っているアンケート調査等を活用し、今後の主催事業を検討する。 ・運營業務の委託団体である能代市芸術文化協会のノウハウを活用した事業の展開を図る。 ・多様化する住民ニーズに効果的かつ効率的に対応し、住民サービスの向上を図るため指定管理者制度の検討を行う。 ・目標値に、利用者満足度の評価目標を加える。
学 識 経 験 者 の 意 見	① 少子高齢化の影響もあり、事業費も含めて、年々厳しくなる中で努力されていることがよくわかる。利用者の声、市民の声をくみ取りながら、今後とも工夫を継続していただきたい。 ② 文化会館主催事業の22年度の入場者数と事業内容の対比で、市民に嗜好傾向があるように感じられた。23年度はどの事業も満遍なく入場している。ジャンルに偏りがないよう計画し出演者の選択や宣伝などで、市民のニーズに応え採算もとる努力がなされている。 ③ 街宣車での宣伝や文化会館ホールの宣伝ポスター、市内各施設に置かれたリーフレットから、演劇や映画、絵画等、豊かな文化に触れる事業を各種助成制度も活用しながら企画し、当市の文化水準を高めようとする努力がなされている。 ④ ロビーコンサートは、発表者にとって技能を磨く場になり、会場が無料で提供され経済的軽減にもなっている。これまでの発表者の推移を見るとレベルの高い方々で、鑑賞者も満足している。ただ、コンサートの開催を申し込むには敷居が高くなっていると感じる。日頃、技能向上に励んでいる方々が気軽にコンサートを開催できる場になってほしい。

施策の項目	(5) 図書館サービスの充実																										
方針・目標	市民の学習要求に応えるため必要な資料を広く収集・整理し、平等かつ無料で提供するとともに、暮らしに役立つ利用しやすい図書館となるよう努める。																										
目標値	快適な読書環境を提供し、より多くの住民に利用されるよう、毎年実施する利用者満足度調査の評価ポイント5段階中4ポイント以上を目指す。																										
事務事業の実績	<p>○図書館資料の充実</p> <p><蔵書数> H23 158,907冊 (うち郷土資料 13,694冊) H22 151,457冊 (うち郷土資料 13,415冊)</p> <p>・特色ある蔵書づくり「木に関するコーナー」 H23 1,637冊 H22 1,606冊</p> <p>○サービス活動の充実と利用の拡大</p> <p><貸出冊数></p> <table border="1" data-bbox="635 674 1378 790"> <thead> <tr> <th></th> <th>個人貸出</th> <th>団体貸出</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23</td> <td>155,675冊</td> <td>9,181冊</td> <td>164,856冊</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>157,757冊</td> <td>8,717冊</td> <td>166,474冊</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(H23) (H22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス・サービス (参考調査)、読書案内 2,109件 3,051件 ・リクエスト (予約) サービス 5,394冊 5,536冊 ・障がい者サービス (家庭配本) 121冊 205冊 ・県立図書館等公共図書館との相互協力 借受 485冊 521冊 貸出 414冊 265冊 ・ホームページの整備と管理 アクセス数 32,000件 34,386件 <p>・新企画</p> <p>◇おやこわいわいルーム 利用者満足度調査の自由意見欄より、利用者の声を具体化するため、一般の利用者を気にせず、小さな子どもやその親が気兼ねなく声を出して本を読める楽しさを感じてもらおうと、第4週の土・日曜日に集会室を開放し絵本、紙芝居を約200冊展示。(H23年度207人利用)</p> <p>◇宇宙コーナーに関する本の展示 7月に行われた市の企画展「小惑星探索はやぶさ」を前に、事前学習用として、館内に小惑星探査機はやぶさ及び宇宙に関する本 (一般書、児童書) のコーナーを設置し、貸出を行った。(H23年度682冊貸出)</p> <p>◇ティーンズコーナーを設置 児童、生徒の読書推進を図るべくティーンズコーナーを新たに設置した。(3月設置)</p> <p>・市や社会教育施設等との連携 生涯学習課との連携：「子育て・家庭教育に関する本」の貸出 小学校向けと保育所向けの本2セット (1セット15冊) を各月ごとに施設へ設置</p> <p>図書館講座</p> <table border="1" data-bbox="529 1821 1378 1982"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23</td> <td>大人のための朗読会 (高校)</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>大人のための朗読会 (高校)</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>佐竹本三十六歌仙絵巻流転 (放送大学)</td> <td>65人</td> </tr> </tbody> </table>				個人貸出	団体貸出	合計	H23	155,675冊	9,181冊	164,856冊	H22	157,757冊	8,717冊	166,474冊		事業内容	参加者数	H23	大人のための朗読会 (高校)	54人	H22	大人のための朗読会 (高校)	38人		佐竹本三十六歌仙絵巻流転 (放送大学)	65人
	個人貸出	団体貸出	合計																								
H23	155,675冊	9,181冊	164,856冊																								
H22	157,757冊	8,717冊	166,474冊																								
	事業内容	参加者数																									
H23	大人のための朗読会 (高校)	54人																									
H22	大人のための朗読会 (高校)	38人																									
	佐竹本三十六歌仙絵巻流転 (放送大学)	65人																									

○子どもの読書活動の振興

・学校との連携・支援

出前おはなし会

	対象校	参加者数
H 2 3	小学校 5 校、ティーンズセンター	352 人
H 2 2	小学校 5 校	465 人

一日図書館員（小学校 6 年生）

2 人

学校図書館担当者研修会

13 人

学校への希望図書の出前配本

	利用校数	利用回数	利用冊数
H 2 3	4 校	14 回	216 冊
H 2 2	8 校	17 回	442 冊

・児童サービスの充実

おはなし会

	回数	参加者数
H 2 3	26 回	420 人
H 2 2	26 回	455 人

○ボランティアとの連携

・図書館劇場

	回数	参加者数
H 2 3	5 回	320 人
H 2 2	1 回	78 人

・おはなし会【再掲】（児童サービスの充実に記載）

○利用者満足度調査

	回答者	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	満足度
H23	266 人	124 人	88 人	44 人	7 人	3 人	4.21
H22	281 人	127 人	89 人	56 人	8 人	1 人	4.19

※評価は 5 段階。

「満足」は 5 「やや満足」は 4 「普通」は 3

「やや不満」は 2 「不満」は 1

点 検 評 価

目標を上回る ほぼ目標どおり 目標をやや下回る
 目標を大幅に下回る

[説明]

○交付金の活用により図書の充実を図った。

（小惑星探査機「はやぶさ」の能代企画展の開催の事前学習用として、はやぶさ及び宇宙関連図書を購入し、特設コーナーを設けた。）

○貸出冊数やレファレンスなど減少。H21 年度の数値に戻った。

（昨年度の「国民読書年」による読書気運の高まりが維持できなかった。）

○学校及びボランティアの協力を受けながら子どもの読書活動の振興に努めた。

○ティーンズコーナーを新設し、児童、青少年期の読書推進を強化した。

○昨年度からの継続事業、高校生による「大人のための朗読会」を 8 月に開催した。（参加校は 2 校から 6 校となり、各校とも独自の取り組みで朗読を披露、本の楽しさを伝えていた。）

○「図書館利用者満足度調査」において、全体的にみた図書館に対する満足度（5 点満点中）は、23 年度 4.21 で、22 年度 4.19 を 0.02 上回った。

	<p>事業としては、目標を上回る実施だったが、貸出冊数等の減少は図書館利用者全体の減少の結果であるとも考えられる。</p>
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p>□拡充 ■継続 □廃止検討 □その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民の学習要求及び利便性に応えられるよう図書資料の充実を図る。 （図書 3,800 冊購入予定。所蔵のない図書は相互貸借制度で他図書館から借受） ○学校や家庭、関係機関との連携を図りながら、読書活動の充実に努めていく。 （県で選定した推奨図書 50 選を冊子とともに展示し貸出を行い、「家族で読書」活動を推進していく。） ○痛みの激しい図書や資料価値のなくなった図書について、除籍を進めていく。 ○年々増加する図書資料に対応するため、書庫の収容スペースの検討を行う。 ○多様化する住民ニーズに効果的かつ効率的に対応し、住民サービスの向上を図るため指定管理者制度導入の検討を行う。
<p>学識経験者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 少子高齢化の影響もあり、年々厳しくなる中で努力されていることがよくわかる。利用者満足度も上昇しており、今後とも工夫を継続していただきたい。 ② 「小惑星探査機はやぶさ」に関わる貸し出しが 682 冊もあり、その時々ニーズを読み取り、タイムリーに本を供給している。 ③ 出前おはなし会にデイサービスセンターを入れたり、学校への希望図書の出前配本、図書館劇場など、図書館を積極的に利用してもらおうとする熱意と工夫が感じられる。従来の活動を主としながらも、今取り組んでいる新企画のように働きかける対象の開拓も進めてほしい。 ④ 小さな子どもを持つ方が図書館に来て読書できるように、子どもがはしゃいでもよい集会室を開放した企画は、第 4 週の土・日曜日だけでも育児中の方々にとって図書館利用の朗報である。 ⑤ 学校図書事務補助員の研修の場を設け、一層の読書環境の改善が期待される。配置校の校長と連携をとりながら、図書館の整備や図書を通した子どもたちへの関わりなど、実践状況を把握し補助員の方々への適切な指導助言をお願いしたい。

施策の項目	(6) 気軽に交流できる環境づくり													
方針・目標	市民の興味や関心を高めるような、施設を利用したイベント・講座を提供し、子どもから大人まで幅広く気軽に交流できる子ども館を目指す。													
目標値	JAXA、他機関との連携を強化し、展示物等の充実を図る。													
事務事業の実績	<p>○利用状況の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23年度</th> <th>H22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総利用者数</td> <td>34,379人</td> <td>33,648人</td> </tr> <tr> <td>プラネタリウム観覧者数</td> <td>6,280人</td> <td>4,833人</td> </tr> <tr> <td>事業活動参加者数</td> <td>(124件) 7,672人</td> <td>(163件) 6,817人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○新規イベント (2件 160人参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子でつくる水ロケット (20人) ・ライブラリアンシップクラブによる馬頭琴演奏会 (140人) <p>○特別イベント (2日間:7/2,3 入場数 2,568人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別展示 in のしろ「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」のプラネタリウム無料上映 (入場者数 2,568人 プラネタリウム観覧者数 1,154人) ※6/26～8/24 「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」のプラネタリウム無料上映 (プラネタリウム観覧者数 2,714人 (特別イベント含む)) 			H23年度	H22年度	総利用者数	34,379人	33,648人	プラネタリウム観覧者数	6,280人	4,833人	事業活動参加者数	(124件) 7,672人	(163件) 6,817人
	H23年度	H22年度												
総利用者数	34,379人	33,648人												
プラネタリウム観覧者数	6,280人	4,833人												
事業活動参加者数	(124件) 7,672人	(163件) 6,817人												
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る													
	<p>[説明]</p> <p>プラネタリウム用動画対応プロジェクターの導入により、全天周映像で幅広い番組提供ができた。また、天体望遠鏡を5台更新したことで体験講座として確立できた。</p> <p>はやぶさ帰還カプセル特別展示では、プラネタリウム特別番組「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」を多くの市民に鑑賞していただき、より宇宙への関心を引きつけることができ、宇宙に一番近い科学館という期待も感じられた。</p>													
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 ()													
	<p>[具体的な取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAXAと宇宙分野で更なる連携を図ることにより、最新の科学に触れることのできる子ども館に努める。 ・JAXAからロケットエンジン、模型、パネル等の提供をしていただき、平成24年9月に展示物のリニューアルを予定している。 ・子どもたちの科学離れが指摘されている中で、子どもの興味を引くような科学実験を取り入れ、科学の疑問に気軽に質問できるようなコーナーを設ける。 ・体験講座を拡充するなど、子どもたちの情操を育む機会をより提供していく。 													

<p>学識経験者の意見</p>	<p>① プラネタリウムやJAXA、新規イベントなどにより利用者が増加しており、望ましい状況にある。今後とも、子どもたちの科学への関心を高める工夫を続けていただきたい。</p> <p>② 事業内容が、屋内のかがくあそび、屋外の自然観察など、実際の体験を通して学べるように考えられている。子どもたちの科学への興味関心を高めようとスタッフで熟考し企画していることが伝わってくる。</p> <p>③ 子ども館から毎月出される月行事予定表は、カラフルで子どもたちの行事への参加意欲を高めている。各学校に「子ども館コーナー」の掲示場所を設け、毎月、行事表が出たことを児童生徒に知らせることで利用者の増加につながると思う。</p> <p>④ はやぶさ帰還特別展示やプラネタリウム特別番組は、多くの市民の宇宙への関心を高め時宜を得た企画であった。JAXA と連携し、宇宙に関わる展示を予定しているが、単なる展示だと一過性の高まりに終わる。体験型の展示にしたり音声や動画など視聴覚に訴えたりするなどの工夫をしてほしい。</p>
-----------------	---

4. 市民体育

【生涯学習・スポーツ振興課】

<p>施策の項目</p>	<p>(1) スポーツを楽しめる環境を整える</p>
<p>方針・目標</p>	<p>生涯スポーツ推進のため、総合型地域スポーツクラブの設立支援、学校体育館の開放やスポーツ教室の開催のほか、各種スポーツ大会の支援やスポーツボランティアの育成を行うなど、スポーツを楽しめる環境を整える。</p>
<p>目標値</p>	<p>①総合型地域スポーツクラブ新規設立数＝1 ②学校体育館夜間開放利用者数 ＝ 11,046人 ※算出根拠/21年度利用者数(22年度は、耐震工事・東日本大震災による使用中止期間があるため) ③市民スポーツ教室等参加者数 ＝ 5,770人 ※算出根拠/平成23年度能代市生涯学習関連事業における参加予定人数 ④体育協会(加盟団体)運営事業(教室等)＝6教室2事業 ※算出根拠/平成23年度当初予算における委託計画等(主管事業)内容 ⑤登録スポーツクラブ団体数・構成員数 ＝ 126団体・2,547人 (うち二ツ井町地域 28団体・457人) ※算出根拠/平成22年度実績数値 ⑥体育施設利用件数・利用者数 ＝ 10,019件・329,112人 ※算出根拠/平成22年度実績数値 ⑦体育施設整備事業の推進 ⑧体育施設の管理を指定管理者に移行</p>
<p>事務事業の実績</p>	<p>①常盤の里スポーツクラブ(平成19年度認定)及び二ツ井きみまちスポーツクラブ(平成21年度認定)の活動支援とともに、新たな東能代にこにこスポーツクラブ(平成23年度認定)への活動支援を開始した。 ②施設の有効な利活用を図り、快適なスポーツ環境を地域住民に提供するため実施している4校(西小・南小・第五小・向能代小)の学校体育館夜間開放事業については、8,952人(前年度比2,357人の増)となっており、重要な活動施設としての機能を果たしている。 (耐震工事・東日本大震災で使用場所並びに使用時間の制限があった) ※23年5月から、第四小の学校開放を開始した。利用者数は2,058人であり、5校の合計は11,010人であった。 ③ニーズや能力に応じた活動の場の確保や多彩なプログラムを提供し、継続的なスポーツ活動の整備を図るうえから、スポーツ教室や各種大会を開催した。前年度の開催内容・日程等について、参加者の意向をアンケート調査し、今年度に事業に反映させたところだが、5,540人(前年度比102人の減)の参加となった。ますます多様化・高度化する市民のスポーツニーズを把握し、それに沿った事業展開を図った。 ④スポーツ振興方策の基本的方向について相互理解を深め、民間体育団体の一層の強化充実を図るため、主管団体としてNPO法人能代市体育協会に上記スポーツ教室やニュースポーツの普及大会等の運営を委託した。(6教室2事業)また、厚生年金能代市体育館、海洋センター周辺施設、能代球場及び市民プールの管理を委託し、民間団体による事業運営及び施設管理のノウハウの活用を図った。 ⑤スポーツクラブの育成と活動の振興を図ることを目的に、体育施設を円滑に利用してもらうための登録制度をとっており、有効で適切な施設運営がなされた。登録スポーツクラブ団体数・構成員数は135団体・2,593人(うち二ツ井地域 28団体・492人)となった。 ⑥9,180件・316,195人の利用者に安全・安心な施設提供ができるよう営繕に努め、効率的・効果的な施設活用を図り、スポーツ意識の高揚を図った。 ⑦年次計画による施設営繕の方向性を明らかにし、適正管理・充実に努めた。 全天候型陸上競技場整備、落合三面球場トイレ設置工事のほか、各施設の維持修繕を実施した。 ⑧NPO法人能代市体育協会を指定管理者として決定し、平成24年3月22日に協定を締結、平成24年4月1日から管理を開始することとなった。</p>

<p>点 検 評 価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <hr/> <p>[説明]</p> <p>①「東能代にここにスポーツクラブ」が総合型地域スポーツクラブとして設立され、その支援や「常盤の里スポーツクラブ」「二ツ井きみまちスポーツクラブ」への活動に向けた支援が有効であった。</p> <p>②学校体育館の開放が増えたことにより、利用団体の便宜が図られるとともに拠点施設として的一端を担えた。各スポーツクラブの使用時間の重複が緩和されることにもつながった。</p> <p>③各種スポーツ教室等の開催を通じて行ったアンケート調査等により、住民要望に沿ったスポーツニーズをさらに把握し、より効果的・効率的なメニューの提供を行った。</p> <p>④各種事業開催にあたり、民間スポーツ団体（NPO法人能代市体育協会や体育指導委員会、総合型地域スポーツクラブ）主管による効率的な運営がされた。</p> <p>⑤毎年度、新規の登録スポーツクラブの参加があり、制度的に確立されてきており、スポーツ人口の増加が見込まれている。</p> <p>⑥経年経過している施設については、特に利用者の事故がないように配慮した。</p> <p>⑦全天候型陸上競技場整備事業の本格実施及び早期営繕が必要で、なおかつ可能なものから、順次計画的に修繕を行い、利用者に有効な活用を図った。</p> <p>⑧計画年次である24年度導入に合わせ、移行を完了することができた。</p>
<p>課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <hr/> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①各種スポーツクラブの活動は多種・多様・多彩であるが、能代地域には包括的な（総合型）クラブがない。民間スポーツ団体（体育協会等）を主管とした主体的なスポーツ教室等の企画・運営を支援し、能代市総合体育館を中心とした市街地における総合型地域スポーツクラブの設立を目指す。</p> <p>②利用団体による自主的運営を支援し、新規開放施設の充実を図る。</p> <p>③各種教室・事業に参加の市民アンケート調査を継続的に行い、魅力あるプログラム提供を行うとともに、更に主管団体の自主的教室開催を促す。</p> <p>④ますます多様化・高度化する市民のスポーツニーズを把握し、それに沿った事業展開を図る。特に、高齢者の拡大に伴い、当該高齢者を対象とした事業の拡大や、高齢者を優先した利用時間の設置を検討する。</p> <p>⑤NPO法人能代市体育協会に、引き続き施設管理及び事業実施について委託を進める。なお、市としては、当該事業の開催に当たり、企画・立案の段階から積極的な連携の強化を図るものとする。</p> <p>※24年度に指定管理者制度を導入。</p> <p>⑥同一種目の統合と協力を促し、各施設の利活用を円滑に行い、新規団体・教室・大会使用に提供できるようコーディネートする。</p> <p>⑦計画的営繕を行い、施設利用者への、適切・快適なスポーツ環境を提供する。</p> <p>⑧施設の適切な維持管理、安全安心な利用を確保することはもとより、多彩なプログラムの提供など、自主事業等の充実を図る。</p>

<p>学識経験者の意見</p>	<p>① 指定管理者制度による施設管理・事業実施の委託が行われているところであるが、管理・実施の適切性や、安全確保、職員の専門性等について教育委員会としてチェック体制を確保するようにお願いしたい。</p> <p>② 健康維持増進にスポーツの必要性がいわれている中で、一般市民に対し市施設体育館の開放や学校体育館の夜間開放などで、働いている方々や高齢の方々が気軽にスポーツに参加できる環境になっており、市民の健康維持の重要な役割を果たしている。体育施設利用者の増加は、市民の健康志向の向上を表している。</p> <p>③ 市民のニーズを把握し、各スポーツ教室を開催したり、多様なプログラムを用意したりして、市民が継続的にスポーツを楽しめるよう積極的に取り組んでいる。</p> <p>④ NPO法人へ施設管理と事業の委託を行った結果、委託前と委託後の成果と課題を、どのようにとらえているのか知りたい。</p> <p>⑤ 指定管理者制度を導入した場合の施設瑕疵による利用者の負傷や、指定団体が市から引き継いだスポーツイベントでの参加者の負傷等に対する事故責任の所在と保障を明確にしておいてほしい。</p> <p>⑥ 「スポーツ少年団」が各大会で大きな成果を上げていることは喜ばしい。「スポーツ少年団」が、勝つことだけを目的にせず、スポーツの楽しさを教え、学習に支障の無いように健康や団体内の人間関係に気を配れるよう、上部機関として指導者の育成に努めてほしい。</p>
-----------------	--

Ⅲ 教育委員会の運営状況

(1) 教育委員会の開催状況

① 開催状況

定例会 12回 臨時会 6回

② 審議された案件等

年月日	区分	番 号	件 名
H23. 4.28	定例会	議案第24号	能代市立小、中学校、能代商業高等学校学校評議員の委嘱について
		議案第25号	能代市公民館運営審議委員会委員の委嘱について
		議案第26号	能代市立図書館協議会委員の任命について
		議案第27号	能代市勤労青少年ホーム運営委員会委員の委嘱について
		議案第28号	能代市働く婦人の家運営委員会委員の委嘱について
		議案第29号	能代市子ども館運営協議会委員の委嘱について
		議案第30号	能代市文化会館運営協議会委員の委嘱について
		報告第3号	能代市奨学選考委員会委員の委嘱について
H23. 5.23	定例会	協議 5	能代市総合体育館条例等の一部改正について
		協議 6	平成23年度能代市一般会計補正予算(第1号)について
		協議 7	平成23年度能代市一般会計補正予算(第2号)について
		報告第4号	能代市青少年問題協議会委員の委嘱について
		報告第5号	能代市生涯学習推進協議会委員の委嘱について
		報告第6号	専決処分した平成22年度能代市一般会計補正予算について
H23. 6.24	定例会	議案第31号	能代市総合体育館管理規則等の一部改正について
H23. 7.21	定例会	議案第32号	能代市文化会館運営協議会委員の委嘱について
H23. 7.26	臨時会	議案第33号	能代市立能代商業高等学校教科書の採択について
		議案第34号	平成24年度使用能代市立中学校教科用図書の採択について
H23. 8.29	定例会	議案第35号	能代市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
		協議 8	平成23年度能代市一般会計補正予算について
		報告第7号	専決処分した平成23年度能代市一般会計補正予算(第3号)について
		報告第8号	専決処分した平成23年度能代市一般会計補正予算(第4号)について
H23. 9.27	臨時会	議案第36号	平成23年度能代市教育委員会関係職員の人事異動について
H23. 9.29	定例会	なし	
H23.10.26	定例会	議案第37号	能代市立能代商業高等学校学則の一部改正について
		議案第38号	能代市中心身障害児就学指導委員会委員の任命について
		公告事項	能代市立能代商業高等学校生徒の募集について
H23.11.21	定例会	協議 9	能代市立能代商業高等学校入学検定料及び入学徴収条例の一部改正について
		協議 10	能代市屋外運動施設条例の一部改正について
		協議 11	能代市屋外運動施設使用料条例の一部改正について
		協議 12	能代市総合体育館等スポーツ施設の指定管理者の指定について
		協議 13	能代市陸上競技場建設工事の請負契約の変更について
		協議 14	平成23年度能代市一般会計補正予算について
H23.12.22	定例会	議案第39号	能代市立能代商業高等学校入学検定料及び入学金免除規則の制定について
		議案第40号	能代市屋外運動施設管理規則の一部改正について
		報告第9号	平成23年度能代市一般会計補正予算について
		報告第10号	専決処分した損害賠償の額を定め和解することについて
H24. 1. 5	臨時会	議案第1号	平成23年度能代市立小学校教職員の人事異動について
H24. 1.25	定例会	なし	
H24. 2.21	定例会	協議 1	能代市公民館条例及び能代市立図書館条例の一部改正について
		協議 2	能代市勤労青少年ホーム条例及び能代市働く婦人の家条例の一部改正について
		協議 3	平成23年度能代市一般会計補正予算について
		協議 4	平成24年度能代市一般会計予算について
		報告第1号	能代市生涯学習推進協議会委員の委嘱について
		報告第2号	専決処分した平成23年度能代市一般会計補正予算について

H24 3.6	臨時会	議案第 2 号	平成 2 4 年度能代市立小・中学校教職員の人事異動について
H24 3.9	臨時会	議案第 3 号	平成 2 4 年度能代市立能代商業高等学校教職員の人事異動について
H24. 3.23	臨時会	議案第 4 号	平成 2 4 年度能代市教育委員会関係職員の人事異動について
H24 3.29	定例会	議案第 5 号	能代市教育委員会事務局組織規則及び能代市教育委員会職員の職名に関する規則の一部改正について
		議案第 6 号	能代市立小、中学校管理規則の一部改正について
		議案第 7 号	能代市ふるさと人事育成・定住促進奨学金貸与に関する規則の一部改正について
		議案第 8 号	能代市公民館運営審議会規則及び能代市図書館協議会規則の一部改正について
		議案第 9 号	能代市勤労青少年ホームの管理運営に関する規則等の一部改正等について
		議案第 1 0 号	能代市体育指導委員に関する規則の一部改正について
		議案第 1 1 号	能代市教育委員会事務局処務規程の一部改正について
		議案第 1 2 号	能代市教育委員会事務局決裁規程の一部改正について
		議案第 1 3 号	能代市勤労青少年ホーム処務規程及び能代市働く婦人の家処務規程の一部改正について
		議案第 1 4 号	能代市総合体育館処務規程及び能代市 B & G 海洋センター処務規程の廃止について
		議案第 1 5 号	能代市適応指導教室指導員に関する要綱の一部改正について
		議案第 1 6 号	能代市教育相談員の委嘱について
		議案第 1 7 号	能代市適応指導教室指導員の委嘱について
		議案第 1 8 号	能代市中心の相談員の委嘱について
		議案第 1 9 号	能代市社会教育指導員の委嘱について
		議案第 2 0 号	能代市子ども館館長の任命について
		議案第 2 1 号	能代市子ども館指導員の委嘱について
		議案第 2 2 号	能代市二ツ井公民館分館長、主事補の委嘱について
		議案第 2 3 号	能代市二ツ井公民館分館運営委員の委嘱について
		議案第 2 4 号	平成 2 4 年度能代市教育委員会の重点目標について
議案第 2 5 号	平成 2 4 年度能代市学校教育指導の重点について		
議案第 2 6 号	平成 2 4 年度能代市社会教育方針について		
議案第 2 7 号	平成 2 4 年度能代市公民館運営方針について		
議案第 2 8 号	平成 2 4 年度能代市文化会館運営方針について		
議案第 2 9 号	平成 2 4 年度能代市立図書館運営方針について		
議案第 3 0 号	平成 2 4 年度能代市子ども館運営方針について		
議案第 3 1 号	平成 2 4 年度能代市勤労青少年ホーム運営方針について		
議案第 3 2 号	平成 2 4 年度能代市働く婦人の家運営方針について		
議案第 3 3 号	平成 2 4 年度能代市市民体育基本方針について		
報告第 3 号	平成 2 4 年度能代市生涯学習推進方針について		
報告第 4 号	平成 2 4 年度能代市青少年健全育成活動方針について		

(2) 教育委員の活動状況

年月日	行 事
H23. 5.12	秋田県市町村教育委員会連合会平成 2 3 年度第 1 回定期総会
H23.5.12	秋田県都市教育長協議会総会
H23. 5.19	平成 2 3 年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議(第 1 回)
H23. 6.24、7.15	平成 2 4 年度から使用される中学校教科用図書の研究、意見交換
H23. 7. 8	平成 2 3 年度東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会
H23. 9.20	教育委員の学校訪問(竹生小の授業参観)
H23.10. 7	大仙市教育委員会との懇談会(場所:常盤小中学校)
H23.10.20	平成 2 3 年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議(第 2 回)
H23.10.27、10.28	平成 2 3 年度市町村教育委員会研究協議会(第 1 ブロック)
H23.11. 1 ~12.13	教育長の学校訪問へ教育委員同行(淳城西小、向能代小、朴瀬小、竹生小、崇徳小、浅内小、二ツ井小、能代第一中、能代第二中、東雲中、能代南中)
H23.11. 9	平成 2 3 年度秋田県都市教育長協議会教育長会議(研修会)
H23.11.22	秋田県市町村教育委員会連合会平成 2 3 年度第 2 回定期総会および委員研修会
H24. 1.21	東京都豊島区教育委員会主催「学力向上シンポジウム」の講演、シンポジスト(教育長)
H24. 1.11	能代山本市町教育委員会連合会研修会(場所:水沢小学校)
H24. 2.13	市長と教育委員の懇談会

能代市教育委員会事務点検・評価報告書
(平成23年度対象)

能代市教育委員会

〒018-3192

能代市二ツ井町字上台1番地1

(担当 教育総務課)

電 話 0185-73-2757

FAX 0185-73-6459

E-mail kyouiku@city.noshiro.akita.jp